CG-WLBARGS

取扱説明書

PN Y613-08426-02 Rev.C

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本商品	CG-WLBARGS を指します。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[　　]	[　　] で囲んである文字は、画面上のボタンを表します。 例：OK → [OK]

●正式名称について

本書で使用しているソフトウェア名の正式名称は以下のとおりです。

〈Windows〉

Windows® .... Microsoft® Windows® Operating system

Windows® XP .... Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および
Microsoft® Windows® XP Professional operating system

Windows® 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system

Windows® Me .... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system

Windows® 98SE .... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目　次

PART 1

こんなときにはこの設定

このPARTでは、本商品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。これらはすべてパソコンがすでにネットワークに接続済みの状態であることを前提とした説明となりますので、まだ接続していない場合は、付属の「らくらく導入ガイド」または本書の「『かんたんスタート』CD-ROMを使わないでネットワーク設定するには」（P.20 ～）からの手順を行ってからお読みください。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームをするには、ゲームサーバとデータの送受信を行うポートを利用可能にするために、UPnP設定で本商品に設定する必要があります。

ご契約の回線やプロバイダ（ISP）によっては、ネットワークゲームに対応していない場合があ りますので、ご確認ください。

●UPnPに対応したネットワークゲームの場合

本商品はUPnPに対応しているので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば、自動的に本商品の設定が行われます。設定画面で次の設定を行います。

1 「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2 画面左側のメニューから「詳細設定」－「UPnP」（P.60）の順に選択し、「UPnPを使用する」を「有効」にします。

- **Windowsにて、ユニバーサル プラグ アンド プレイ（UPnP）に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。ご利用になる前に、Windowsの修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoftにお問い合わせください。**
- **UPnP機能は、Windows XPでご使用いただけます。**

●UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

DMZ機能を使います。設定ユーティリティで次の設定を行います。

1 「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2 画面左側のメニューから「詳細設定」－「DMZ」（P.60）の順に選択します。

3 「DMZホスト」でホストとなるパソコンを選択して、［設定］を押します。

注意

DMZ機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは、代表的なソフトとして、NetMeeting 、MSN　Messenger を利用する場合の設定を説明しています。本商品は、NetMeeting、MSN Messenger（Ver.6.2 以降）に対応しています。各アプリケーションの使い方は、各ソフトのヘルプやホームページをご覧ください。

●NetMeeting

ここでは、DMZ 機能を使います。

1　「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2　画面左側のメニューから「詳細設定」－「DMZ」（P.60）の順に選択し、NetMeeting を使用するパソコンを選択してください。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

●MSN Messenger（Ver.7.0以降）

本商品はUPnP に対応しているので、MSN Messenger を利用する際は、自動的に本商品の設定が行われます。

1　「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2　画面左側のメニューから「詳細設定」－「UPnP」（P.60）の順に選択します。

3　「UPnP を使用する」を「有効」にします。

- **MSN Messenger、NetMeeting は 1 台のパソコンでのみ使用できます。**
- **MSN Messenger は Ver. 7.0 で動作確認しております。**
- **対応 OS は Windows XP Service Pack1（SP1）以降のみです。**

4　「UPnP 使用ポート」を選択して、ポートの状態を確認します。

外部にサーバを公開するには

●バーチャル･サーバを使用する

バーチャル・サーバ機能を利用して外部にサーバを公開する設定例です。

1. 「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2. 画面左側のメニューから「詳細設定」ー「バーチャル・サーバ」の順に選択します。

3. 「接続先」で、バーチャル・サーバを接続したいパソコンを選択します。

4. 「サービス」と「プロトコル」を設定します。

「ポート範囲」は、「サービス」で「ユーザ定義」を選択した場合に、任意の数値を入力します。

詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「バーチャル・サーバ」（P.59）をご覧ください。

●ダイナミックDNSを使用してURLでアクセスする

インターネット側からドメインネーム（URL）を使用して、バーチャル・サーバなどに接続することができる設定例です。

1. 「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2. 画面左側のメニューから「WAN 側設定（インターネット）」－「ダイナミック DNS」画面にある「corede.net」（無料サービス。一部サービスは有料）、「DynDNS.org」（無料サービス）、「IvyNetWork」（有料サービス）のいずれかを選択して設定を行います。そのときの「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」は控えておいてください。

3. 本商品の「ダイナミックDNS」画面に戻り、手順1で設定した「ログイン名」、「ログインパスワード」および「ドメイン名」を入力し、［設定］を押します。

詳しくは「PART2 設定画面を見てみよう」の「ダイナミック DNS」（P.49）をご覧ください。

「@Net DDNS」（有料サービス／「@NetHome」会員のみ）をご利用いただく場合は、加入者サポートページより、家庭内ネットワーク内のダイナミック DNS（ホームモニタリング）からお申し込みください。

外部にネットワークカメラ(カメラサーバ)の映像を公開するには

本商品にネットワークカメラを接続して、撮影した画像をインターネット上に配信することができます。その場合は、「PC データベース」(P.51)、「ダイナミックDNS」(P.49)、「バーチャルサーバ」(P.59) などの設定を行う必要があります。

詳しい解説をホームページからご覧になることができます。コレガのホームページ（http://corega.co.jp/）から「製品情報」−「挿入ナビゲーション」の順に選択し、お助けコレガくんシリーズ「ダイナミック DNS 活用ガイド」をご覧ください。

マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには

●プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する

通常はプロバイダに接続しますが、「flets」のドメイン名が含まれたURLが入力されたときに「フレッツ・スクウェア」に自動的に接続させることができます。「フレッツ・スクウェア」を利用するには、「セッション2」に設定を行うことで利用可能になります。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション-1のAccount-1」に、「フレッツ・スクウェア」への接続設定を「セッション-2のAccount-2」に設定する場合

1 「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2 画面左側のメニューから「WAN側設定（インターネット）」を選択し、「PPPoE」画面で「セッション-1設定」を押します。

3 「セッション選択」は「セッション-1」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します（例として「Account-1」を選択します）。

4 通常のプロバイダから通知された内容（「接続ユーザーID」、「接続パスワード」）を入力し、「PPPoEサービス・タイプ」は「PPPoE」を選択して、［設定］を押します。

5 次にフレッツ・スクウェアの設定を行います。「セッション選択」は「セッション-2」を選択し、「アカウント選択」は任意のアカウントを選択します（例として「Account-2」を選択します）。

6 「接続ユーザーID」と「接続パスワード」は、それぞれ下記の表の内容で入力します。

	NTT東日本のエリアのお客様	NTT西日本のエリアのお客様
接続ユーザーID	guest@flets	flets@flets
接続パスワード	guest	flets

（2005年11月現在）

7 「DNSサーバ」で「自動設定」を選択します。

8 画面上側にある「PPPoE」のラジオボタンを押し（ラジオボタンにチェックがついていても押してください）、「PPPoE」画面が表示されたら「接続先設定（セッション2のみ有効）」を選択します。

9 「接続アカウント」で「Account-2」を選択します。

10 「ルール選択」で「ドメイン名」を選択し、「ドメイン名」の欄に「.flets/」と入力します。

11 ［登録］を押します。

詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「PPPoE」（P.44）をご覧ください。

●複数固定IPサービスを利用するには（Unnumbered利用）

各プロバイダが提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本商品および本商品に接続されたパソコンにそれぞれ設定して、サーバ公開などが可能になります。

例：本商品の元の設定…IP アドレスが「192.168.1.1」サブネットマスクが「255.255.255.0」

項目名	**プロバイダからの情報**
IP アドレス	XXX. ○○○ . □□□ .113 ～ XXX. ○○○ . □□□ .120
サブネットマスク	255.255.255. ◆◆◆
DNS サーバ	12.34.56.12

設定するパソコンの IP アドレスを「XXX. ○○○ . □□□ .115」と設定したい場合

1　「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2　画面左側のメニューから「WAN 側設定（インターネット）」－「PPPoE」の順に選択し、［セッション -1 設定］を押します。

3　「アカウント選択」は任意のアカウントを選択し、「接続ユーザー ID」と「接続パスワード」を入力します。

4　その他を以下のように設定します。
・
・ルータ IP→「XXX. ○○○ . □□□ .114」と入力します（プロバイダから割り当てられた最初の IP アドレスが入ります）。
・サブネットマスク→「255.255.255. ◆◆◆」と入力します。
・DNS サーバ→「マニュアル設定」を選択し、「DNS サーバ 1」に「12.34.56.12」と入力します。

5　［設定］を押します。

6　設定するパソコンの固定 IP アドレスを以下のように変更します。

・PPPoE サービスタイプ→「Unnumbered（固定 IP）」にします。
・IP アドレス→「XXX. ○○○ . □□□ .115」（設定したい IP アドレス）
・サブネットマスク→「255.255.255. ◆◆◆」
・デフォルトゲートウェイ→「XXX. ○○○ . □□□ .114」（ルータ IP と同じで可）
・DNS サーバ→「12.34.56.12」

メモ **TCP/IPの変更方法については、本書の「『かんたんスタート』CD-ROMを使わないでネットワーク設定するには」（P.20）をご覧いただくか、各 OS の取扱説明書をご覧ください。**

7　本商品の設定画面に再度アクセスする場合は、Web ブラウザのアドレス欄に入力する IP アドレスを「WAN 側設定（インターネット）」で設定した「XXX. ○○○ . □□□ .114」と入力します。

詳しくは、「PART2 設定画面を見てみよう」の「PPPoE」（P.44）をご覧ください。

Unnumberedを利用する場合は、LAN側のパソコンに固定IPアドレスを設定する必要があります。

本商品を無線アクセスポイントとして使用するには

アッカ･ネットワークスやイー･アクセス、NTTなどのルータ機能付きモデムをご使用の場合、本商品のルータ機能をオフにすると、本商品を無線アクセスポイントとして使用できます。

- 本書の手順を行う前に、ルータ機能付きモデムとパソコンのみを接続して、問題なく通信ができるかご確認ください。ルータ機能付きモデムの接続および設定方法につきましては、お使いのモデムの取扱説明書をご覧ください。
- 次ページの「本商品底面のルータ機能スイッチを使用する場合」、「ユーティリティ画面上で設定する場合」でルータ機能から無線アクセスポイントへ切り替えた際、または無線アクセスポイントからルータ機能に切り替えた際は自動的にIPアドレスが変更されます。本商品の機能を再度切り替える場合は、次の表をご覧の上設定を行ってください。

ルータ機能解除スイッチ	IPアドレス
変更可	192.168.1.1
解除	192.168.1.220

●「かんたんスタート」CD-ROMを使って設定する場合

「かんたんスタート」CD-ROMで設定する場合は、お使いの環境に合わせるため、上記で説明しているIPアドレスとは異なります。

1 付属の「かんたんスタート」CD-ROMをパソコンに入れます。

2 「各種設定」タブを選択し、[かんたんルータセットアップ]を押します。

3 [基本設定]を押します。

4 表示された画面にしたがって[次へ]を押し、ルータ機能設定画面まで進みます。

5 ルータ機能設定画面で「ルータ機能」を「OFF」に設定し、[次へ]を押します。

6 お使いの環境での「LAN側IPアドレス」と「サブネットマスク」の値が自動的に表示されます。

IPアドレスは、設定内容を変更したい場合に必要となりますので、あらかじめ値を控えておいてください。

7 [次へ]を押します。

8 「ユーザID」と「パスワード」を入力し、[次へ]を押します。

9 [終了]を押します。

10 「かんたんスタート」CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブから取り出します。

11 パソコンを再起動します。

●本商品底面のルータ機能スイッチを使用する場合

1 本商品の電源を切り、底面の「ルータ機能解除スイッチ」を「解除」に切り替えます。

2 パソコンの電源が入っている場合は電源をOFFにします。

3 本商品→パソコンの順に電源を入れます。

●設定画面で設定する場合

1 Internet Explorerを起動し、アドレス欄に「192.168.1.1」と入力して［Enter］キーを押します。

2 ログイン画面が表示されますので、ユーザ名に「root」と入力し、パスワードを空欄のままにして［ログイン］を押します。

3 画面左側のメニューから「モード」を押します。

4 「ルータ機能」は「無効」を選択し、「無線アクセスポイント機能」は「無線アクセス有効」を選択します。

5 ［設定］を押します。

6 パソコンの電源をOFFにします。

7 パソコンの電源を入れます。

パソコンのIPアドレスを調べたいときは

パソコンのIPアドレスを調べるには、次の方法を行ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

●Windows XP／2000の場合

1　「スタート」－「すべてのプログラム」（Windows 2000の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」の順に選択します。

2　キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。

3　IPアドレスを確認します。

●Windows Me／98SEの場合

1　「スタート」－「ファイル名を指定して実行」の順に選択します。

2　「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、［OK］を押します。

3　パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択すると、パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、［解放］を押した後、［書き換え］を押してください。

本商品のログイン名(ユーザ名)、パスワードを変更したいときは

本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードは、次の手順で変更できます。

1　「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定が面を表示します。

2　画面左側のメニューの「管理」を選択します。

3　「管理者ログイン名」、「管理者ログイン・パスワード」、「パスワードの確認」にログイン名と新しいパスワードを入力して［設定］を押します。

最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは

本商品の機能強化のため、予告なくファームウェアのバージョンアップを行うことがあります。最新のファームウェアは弊社のホームページ（http://corega.jp/）から入手してください。
設定画面からでも、最新のファームウェアダウンロードページに接続することができます。詳しくは「PART2 設定画面を見てみよう」の「ファームウェア更新」（P.62）をご覧ください。

- 更新するファームウェアのバージョンによっては、お客様が更新前に設定されたデータが反映されない場合があります。
- ファームウェアをアップデートする前に、本商品の設定内容をメモしておいてください。
- ファームウェアをアップデート中は、他の操作を行ったり、本商品の電源を切ったりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗したり、本商品の故障の原因となる場合があります。

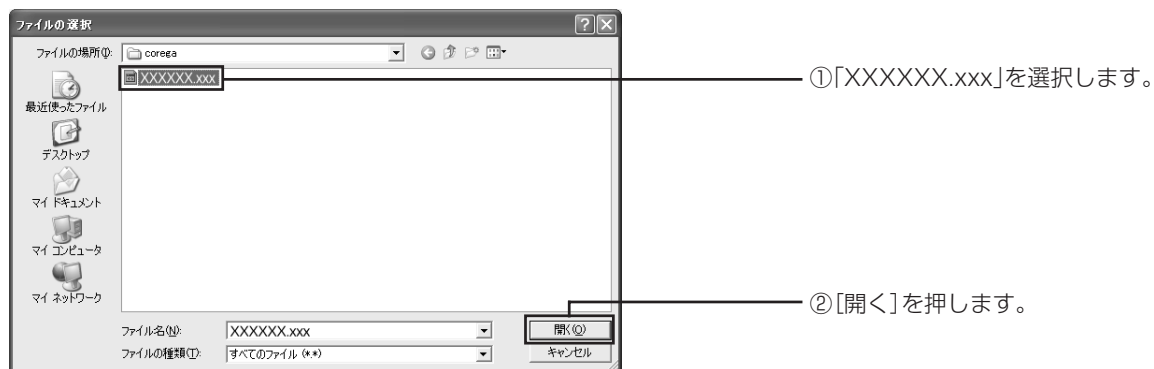
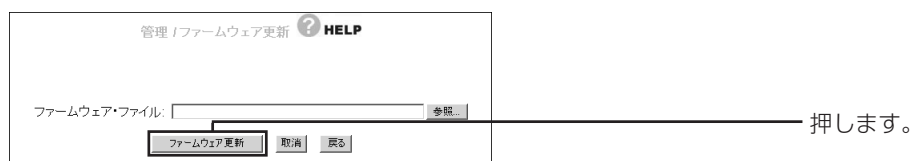
ここでは例として「C:¥corega」という名前のフォルダに「XXXXXX.xxx」というファイルを保存した場合で説明します。

1　「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2　画面左側のメニューの「管理」を選択します。

3　「ファームウェア更新」を選択します。

4　［参照］を押します。

5 「C:¥corega」内の「XXXXXX.xxx」を選択し、[開く] を押します。

6 [ファームウェア更新] を押します。

7 次のダイアログボックスが表示されたら [OK] を押すと、ファームウェアの更新処理が開始されます。

8 更新作業が終了したら、初期化スイッチを使って本商品を工場出荷時の状態に戻してください。詳しくは「本商品を工場出荷時の状態に戻すには」(P.20) をご覧ください。

- **ファームウェアのアップデートの再起動は初期化スイッチを使用してください。**
- **ファームウェアのアップデート中はSTATUS LEDが点灯します。STATUS LEDが点灯中は絶対に電源を切らないでください。**

以上でファームウェアの更新は終了です。

●ファームウェアのアップデートに失敗した

本商品を工場出荷時の状態に戻してから、再度、ファームウェアのアップデートを行ってください。

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいますので、再設定する必要があります。

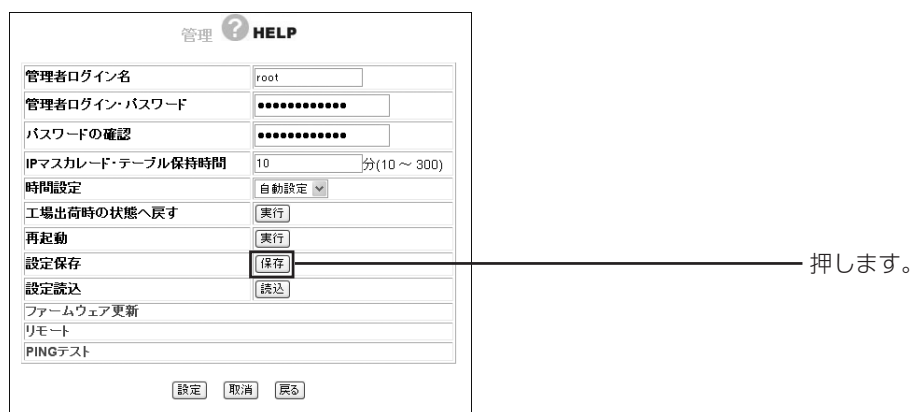
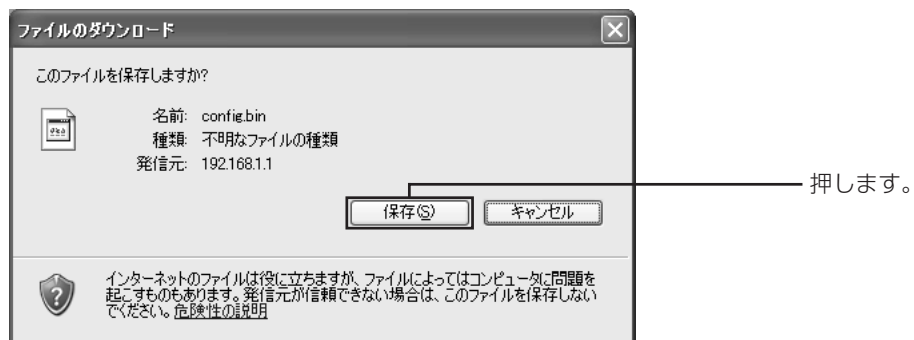
本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは

現在の設定内容をバックアップし､何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に､保存してあるバックアップファイルを使用して、設定を元に戻すことができます。

●バックアップを取る

1 「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

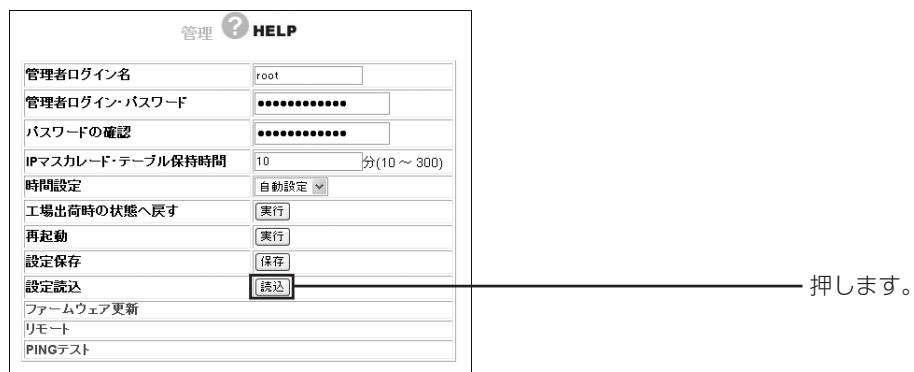
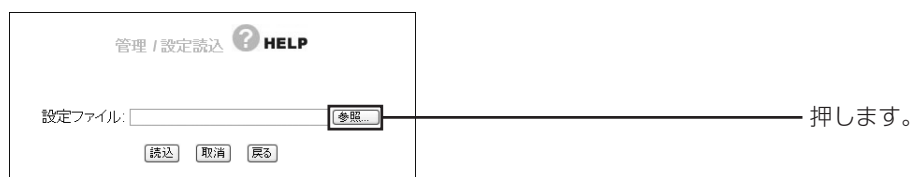
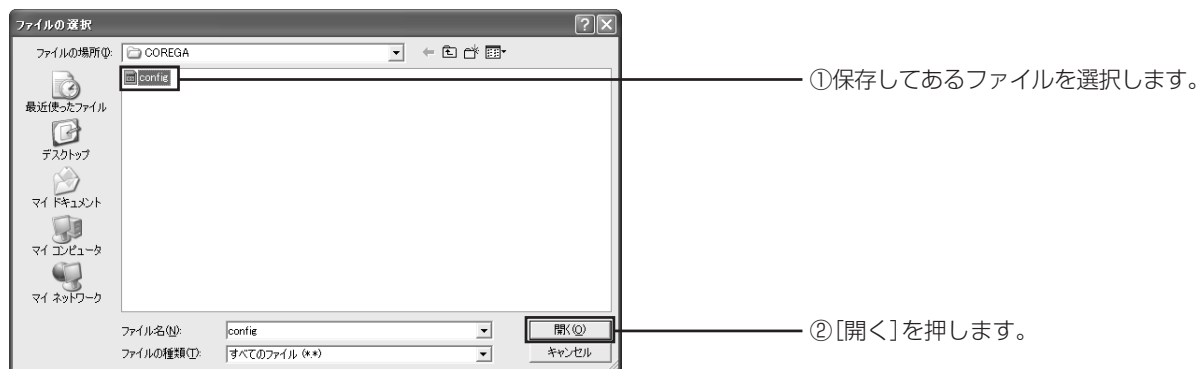
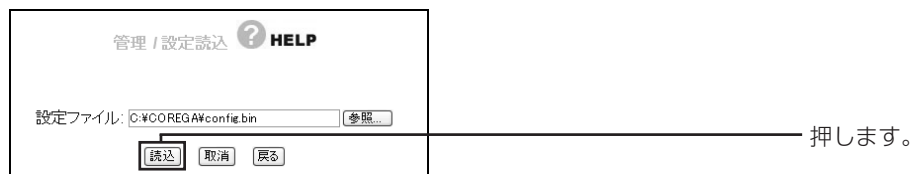
2 画面左側のメニューの「管理」を選択します。

3 「設定保存」の［保存］を押します。

4 「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されたら［保存］を押します。

5 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、［保存］を押し、保存する場所を指定してファイルを保存します。

●元に戻す

1 「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2 画面左側のメニューの「管理」を選択します。

3 「設定読込」の［読込］を押します。

4 画面が表示されたら、［参照］を押します。

5 前ページ「本商品の設定のバックアップを取る」で保存したファイルを選択して、[開く] を押します。

6 ［読込］をクリックします。

7 「設定ファイルを読み込みます。よろしいですか？」と表示されるので、［OK］を押します。

以上で、本商品の設定を元に戻すことができました。

本商品を再起動するには

本商品のシステムを再起動します。設定を変更した場合には、本商品を再起動して設定内容を反映させてください。本商品を再起動する操作は「工場出荷時の状態に戻すには」の操作とは異なりますのでご注意ください。本商品を再起動するには、次の２つの方法があります。

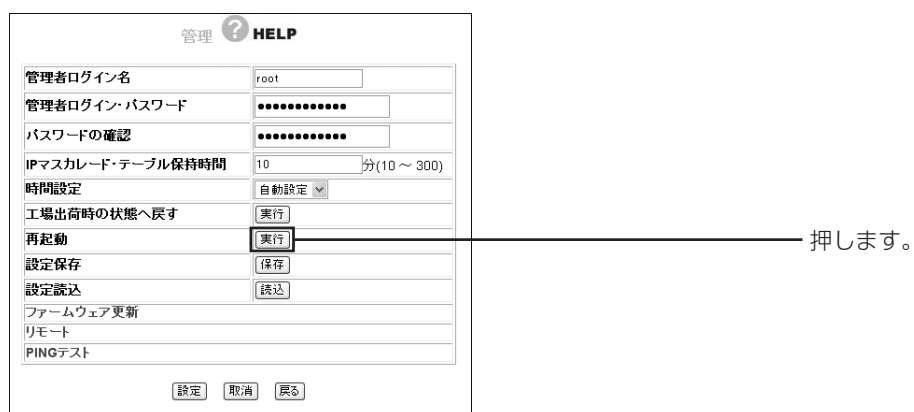
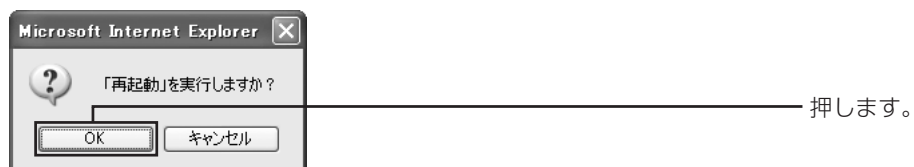
●電源を一度抜く

AC アダプタの電源プラグを電源コンセントから一度抜き、その後再度差し込みます。

●設定画面から行う

1 「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2 画面左側のメニューの「管理」を選択します。

3 「再起動」の［実行］を押します。

4 「『再起動』を実行しますか?」と表示されるので、［OK］を押します。

5 再起動が実行されます。

本商品を工場出荷時の状態に戻すには

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定した情報が初期値に戻ってしまいますので、重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに書き残したり、「本商品の設定のバックアップを取る／元に戻すときは」（P.17）を実行し、再設定できるようにしておいてください。本商品を工場出荷時の状態に戻すには、次の2つの方法があります。

●初期化スイッチを使う

1　本商品の電源がオンの状態で、背面の初期化スイッチを押します。初期化スイッチはクリップなど堅くて細いもので押してください。

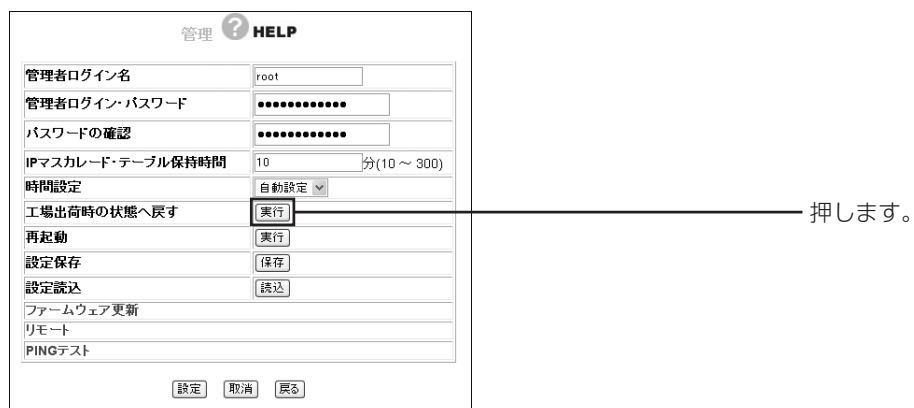
2　初期化スイッチを15秒以上押し、STATUS LEDが点灯したら初期化スイッチを離します。

3　STATUS LEDが消灯すると、本商品が工場出荷状態に戻ります。

●設定画面から行う

1　「らくらく導入ガイド」裏面の「さらにルータの機能を使いたい場合」をご覧になり、本商品の設定画面を表示します。

2　画面左側のメニューの「管理」を選択します。

3　「工場出荷時の状態へ戻す」の［実行］を押します。

4　「『工場出荷時の状態へ戻す』を実行しますか?」と表示されるので、［OK］を押します。

「かんたんスタート」CD-ROMを使わないでネットワーク設定するには

ここでの説明は、ネットワーク接続をする前の準備にあたります。付属の「かんたんスタート」CD-ROMを使わずにネットワーク設定を行う場合は、次の内容を確認してください（確認と設定の方法は、OSの種類など、ご使用になるパソコンの環境により異なります）。

・IP自動取得になっていること
・ネットワークアダプタの設定

●Windows XPの場合

この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンして行ってください。ユーザ権限については、OSの取扱説明書をご覧ください。

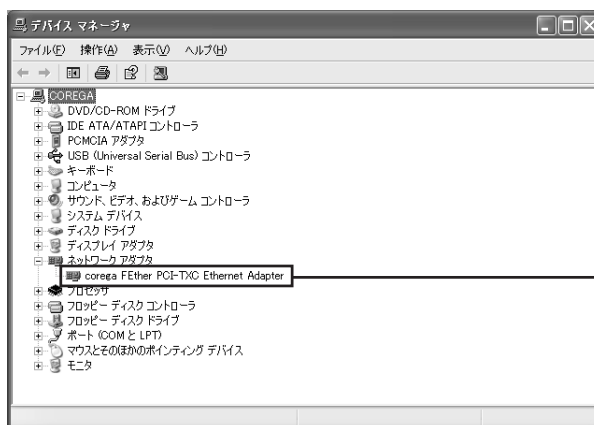
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　「スタート」－「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」を押します。

2　「ハードウェア」タブを選択し、［デバイスマネージャ］を押します。

3　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。

■TCP/IP プロトコルを確認する

1 「スタート」－「コントロールパネル」の順に選択します。

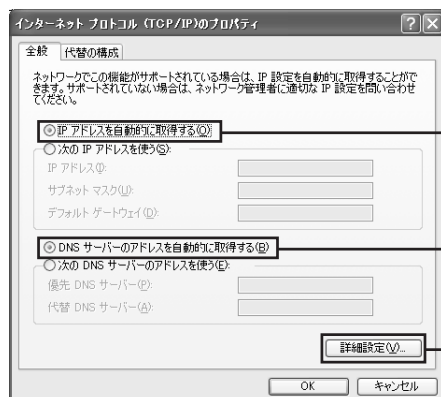
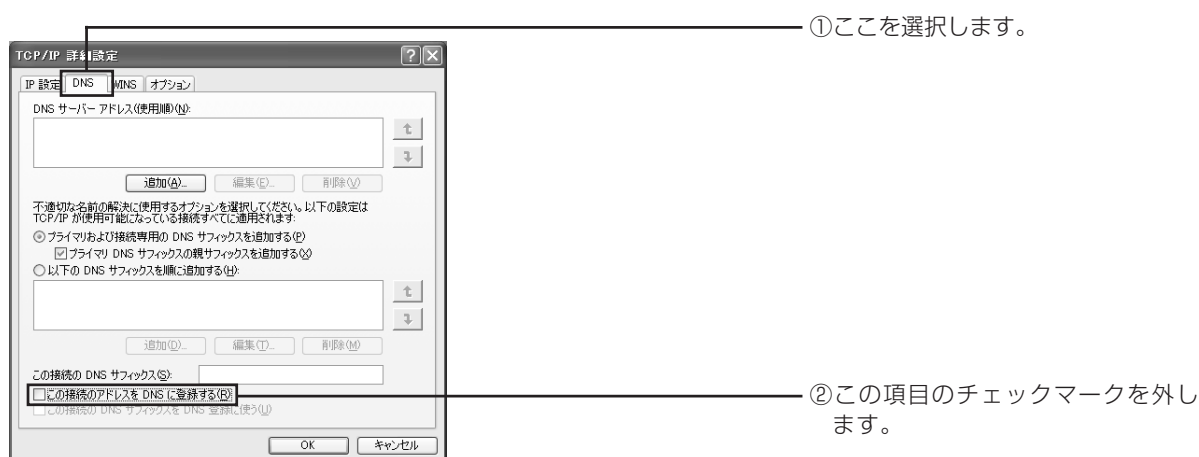
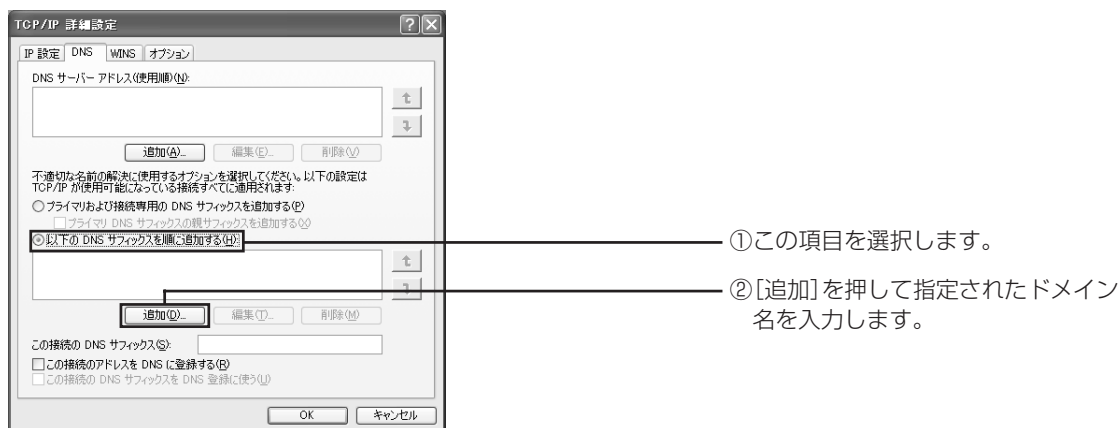
2 「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」を選択してください。

3 「ネットワーク接続」を選択します。

4 無線接続の場合は「ワイヤレスネットワーク接続」を、有線接続の場合は「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。

5 「全般」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP)」にチェックが入っているか確認します。

6 「インターネットプロトコル（TCP/IP)」を選択し、［プロパティ］を押します。

7 「全般」タブの「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］を押します。

8 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、[追加] を押して指定されたドメイン名を入力してください。

9 「TCP/IP 詳細設定」画面の [OK] を押します。

10 「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面の [OK] を押します。

11 「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」または「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の [閉じる] を押します。

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をしよう」(P.31) に進みます。

●Windows 2000の場合

この作業は､｢Administrator｣または同等の権限を持つユーザ名でログインして行ってください。
ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

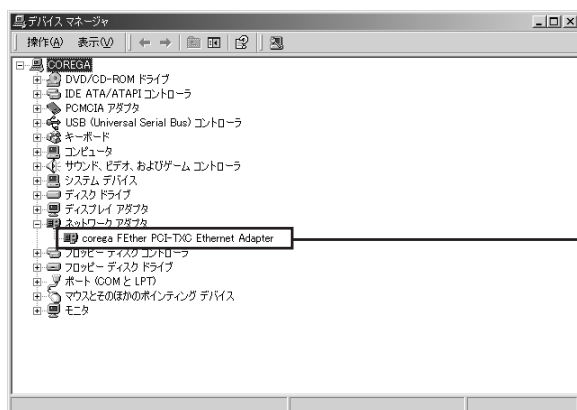
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか､｢デバイスマネージャ｣で確認します。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」を選択します。

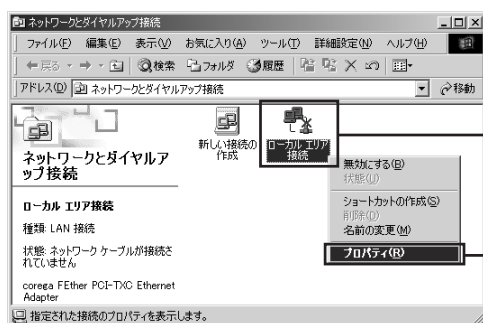
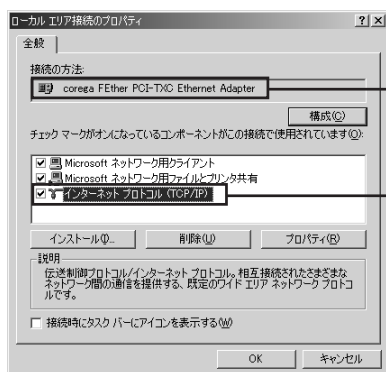
2　「ハードウェア」タブを選択し、[デバイスマネージャ] を押します。

3　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

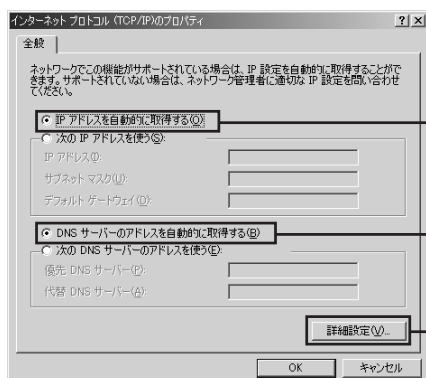
4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

｢×｣や｢！｣マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。
ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。

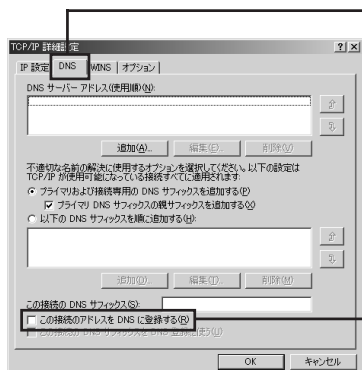
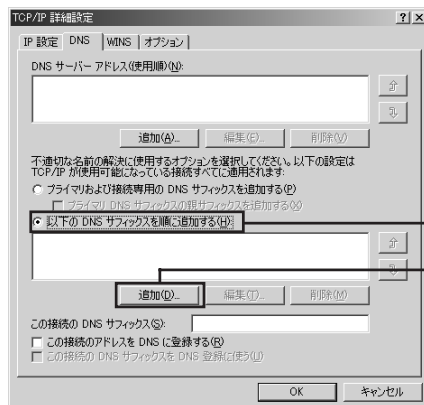
■ TCP/IP プロトコルを確認する

1　「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順に選択します。

2　「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューの「プロパティ」を選択します。

3 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認します。

「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が一覧にない場合は、「TCP/IP をインストールする」（P.25）をご覧ください。

4 「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］を押します。

5 「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］を押します。

6 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブを選択し、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］を押して指定されたドメイン名を入力してください。

7 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］を押します。

8 「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］を押します。

9 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［OK］を押します。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

次に「Web ブラウザの設定をしよう」（P.31）に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

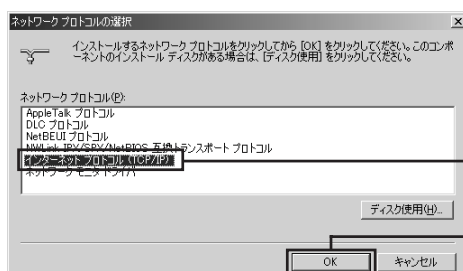
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順に選択します。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」を選択します。

3 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で［インストール］を押します。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面が表示されたら「プロトコル」を選択し、［追加］を押します。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されたら「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［OK］を押します。

6　「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が有効になっていることを確認し、[OK] を押して画面を閉じます。

7　再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.25）からの設定を行ってください。

●Windows Me／98SEの場合

■ダイヤルアップを設定する

お使いのパソコンにモデムが内蔵されている場合は、モデムから通信を行わないようにしておく必要があります。

1　デスクトップにある「Internet Explorer」のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択します。

2　「接続」タブを選択し、「ダイヤルアップの設定」で「ダイヤルしない」を選択し、[OK] を押します。

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

3　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

- **「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をお読みになり、正常な状態にしてください。**
- **「Microsoft仮想プライベートネットワークアダプタ」「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本商品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。**

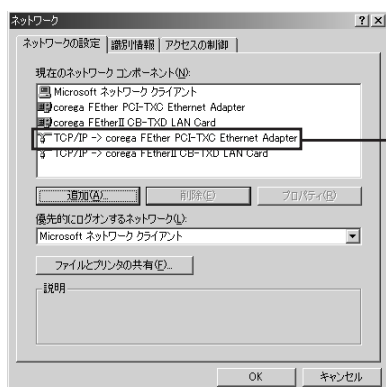
■TCP/IPプロトコルを確認する

ここでは例としてWindows Meを使用していますが、Windows 98SEをご使用の場合も手順は同様です。

1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

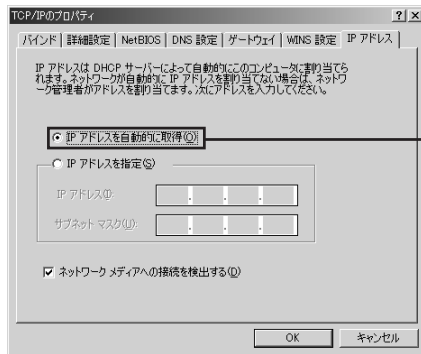
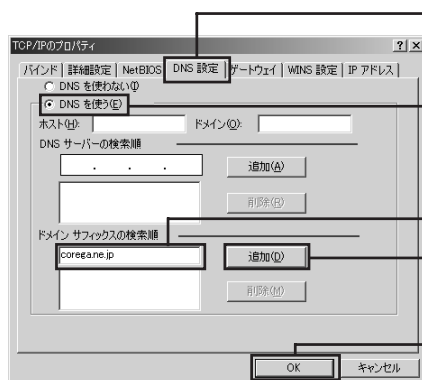
2 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

メモ **Windows Meの場合、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」が表示されます。**

3 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

メモ **「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていなかった場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.29）をご覧ください。**

4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］を押します。

メモ **「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタを選択します。**

5 「IPアドレス」タブの「IPアドレスを自動的に取得」を選択します。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「DNS設定」タブで「DNSを使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して［追加］を押してください。

6 「TCP/IPのプロパティ」画面の［OK］を押します。

7 「ネットワーク」画面の［OK］を押します。

WindowsのOS用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROMドライブ（もしくはフロッピーディスクドライブ）にWindowsのOS用ディスクを挿入し、メッセージにしたがって操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

次に「Webブラウザの設定をしよう」（P.31）に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

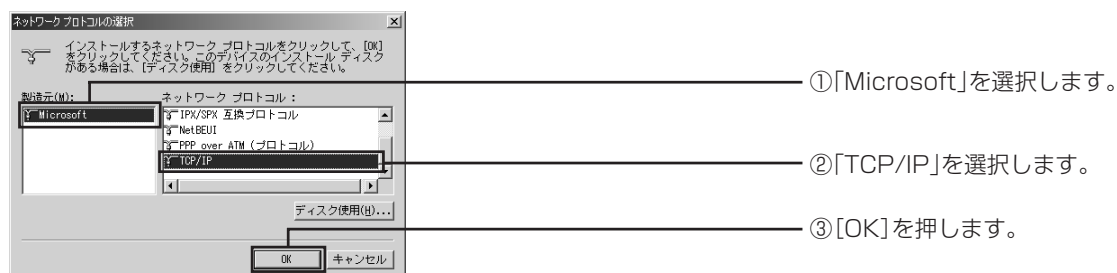
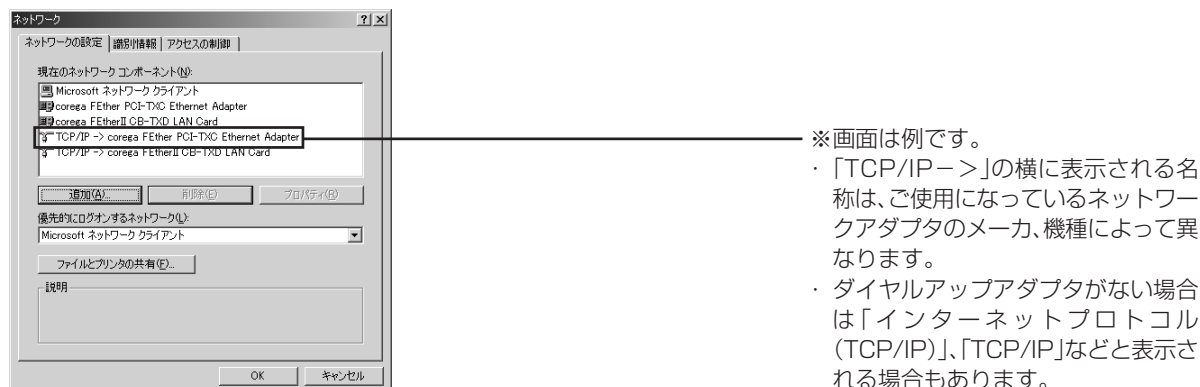
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールしてください。

1 「スタート」－「設定」－「コントロールパネル」の順に選択します。

2 「コントロールパネル」にある「ネットワーク」をダブルクリックします。

3 「ネットワーク」の画面で、［追加］を押します。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面で「プロトコル」を選択し、［追加］を押します。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面の「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択して［OK］を押します。

6 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP －＞ XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が追加されていることを確かめます。

7 ［OK］をクリックして「ネットワーク」画面を閉じると、再起動を促すメッセージが表示されますので再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.28）からの設定を行ってください。

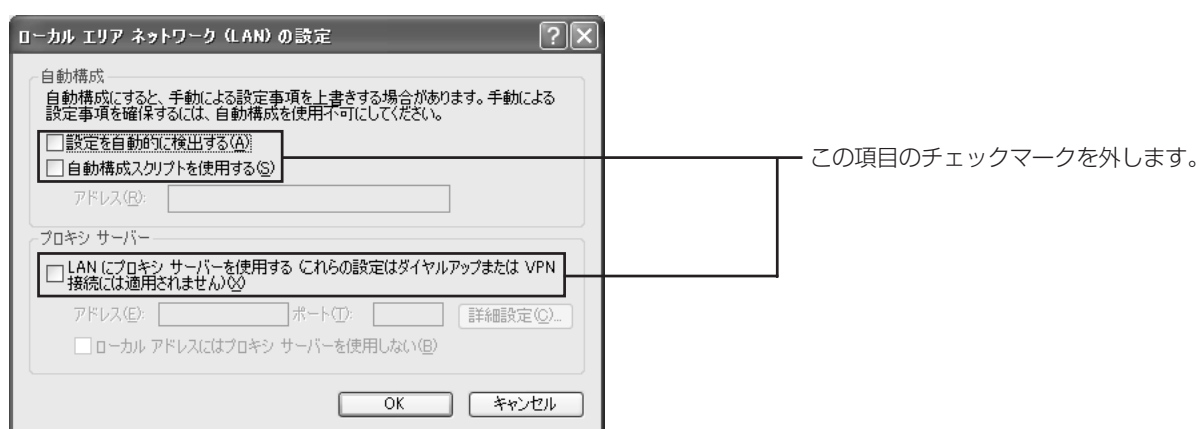
●Webブラウザの設定をしよう

本商品を利用できるように、Web ブラウザの設定を行います。ここでは、Internet Explorer 6.0の場合の設定方法を例に説明しています。その他のWeb ブラウザの場合は、Web ブラウザのヘルプなどをご覧ください。

1　Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」の順に選択します。

2　「インターネットオプション」画面が表示されたら「接続」タブを選択します。

3　「LAN の設定」を押します。

4　「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」画面で、「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」、「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックマークを外します。

5　［OK］を押します。

6　「インターネットオプション」画面で ［OK］ を押します。

次に「パソコンと本商品を接続しよう」（次ページ）に進みます。

●パソコンと本商品を接続しよう

■本商品を設置する場所について

- 本商品に同梱されている「安全にお使いいただくためにお読みください」をご覧いただき、使用時の注意等についてご確認ください。
- 本商品の側面にある通気口は、放熱のため塞がないでください。
- 本商品を安定させて設置する場所が見つからない場合は、付属の縦置きスタンドを本商品に取り付けることで、本商品を立てて設置できます。取り付け方法は、本商品に同梱されている「かんたんスタート」（CD-ROM）をご覧ください。

〈設置に適した場所〉

- 水平で落下の恐れがない場所（机の上など）
- 風通しのよい涼しい場所

〈設置に適さない場所〉

- 直射日光が当たる場所
- 暖房器具の近くなど
- 高温多湿でホコリの多い場所
- パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

■本商品の電源を入れるには

〈本商品の電源の取り方〉

本商品の電源は、たこ足配線などを避け、他の機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用ACアダプタを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプタやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

〈本商品の電源の入れ方／切り方〉

本商品背面のDCジャックにACアダプタのDCプラグを接続し、電源プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプタの電源プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。

- **本商品には電源スイッチがありません。電源プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。**
- **ACアダプタの電源プラグを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こす恐れがあります。**

■パソコン、モデムと本商品を有線で接続する

有線接続をする場合や二台目以降のパソコンを設定する場合は、本商品とモデム·パソコンなど、ネットワーク接続する機器をLANケーブルで接続します。

・無線での接続方法は、付属の「らくらく導入ガイド」をご覧ください。
・無線で接続する場合、電波強度を高めたいときは、別売のオプショナルアンテナを取り付けることもできます。

〈推奨ケーブルについて〉

すべてのケーブルが機器間を接続するのに適切な長さであることを確認します。本商品とパソコンを接続するLANケーブルの長さは100m以内にしてください。また、ケーブルは、100BASE-TXで接続する場合はカテゴリ5以上、10BASE-Tで接続する場合はカテゴリ3以上のLANケーブルを使用してください。

1 本商品、モデムまたは回線終端装置、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。

2 本商品背面のLANポートにLANケーブルを接続します（①）。

3 LANケーブルのもう一方をパソコンのLANポートに接続します（②）。

4 本商品背面のWANポートに付属のLANケーブルを接続します（③）。

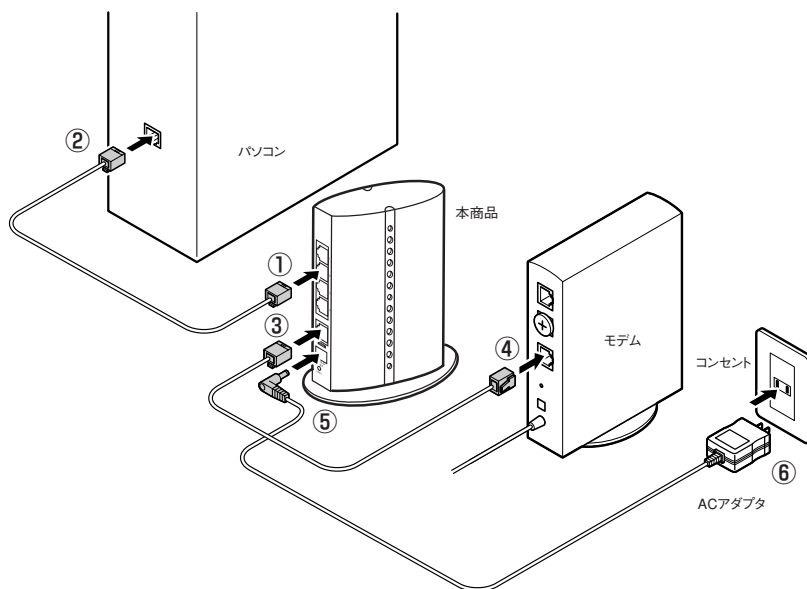
5 モデムまたは回線終端装置のネットワークポート（RJ-45）にLANケーブルのもう一方を接続します（④）。

6 モデムまたは回線終端装置の電源を入れます。

7 本商品背面のDCジャックに専用ACアダプタを接続します（⑤）。

8 本商品の専用ACアダプタをコンセントに接続し、本商品の電源を入れます（⑥）。本商品前面のPower、WANの各LEDが点灯していることを確認します。

9 パソコンの電源を入れます。

10 本商品前面の、ケーブルを接続したLAN側のポートのLEDが点灯していることを確認します。

●本商品の設定をしよう

パソコンから本商品を使ってインターネットに接続できるように本商品の設定を行います。本商品の設定はWeb ブラウザで行います。本商品に接続されているパソコンのうちの1台から設定作業を行ってください。Web ブラウザにはInternet Explorer 5.5 以降をご利用ください。これ以外のWeb ブラウザでは、正常にセットアップが行えない場合があります。

■簡単な接続方法
インターネットに接続できるように最小限の設定をします。インターネットへの接続方式はご契約されたプロバイダによって異なります。

設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品の設定を行い、設定作業が終了してから再度起動させてください。セキュリティソフトの停止、起動の方法は、セキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。

1　本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer を起動します。

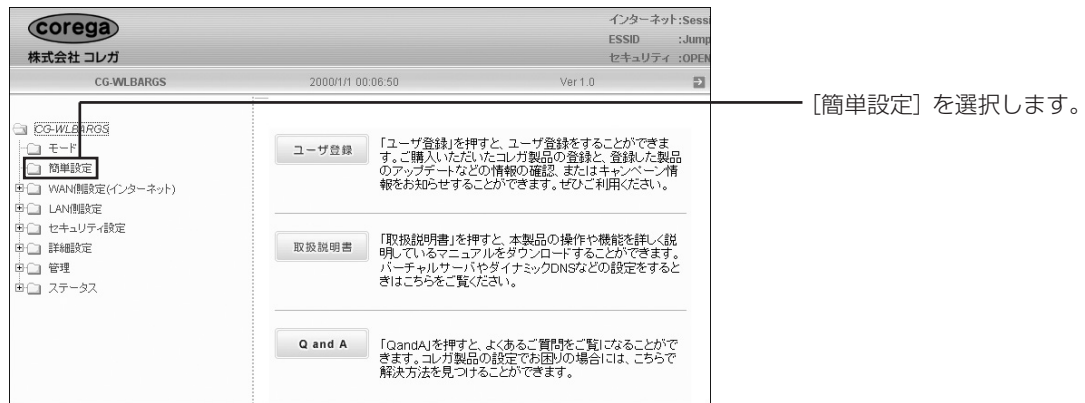
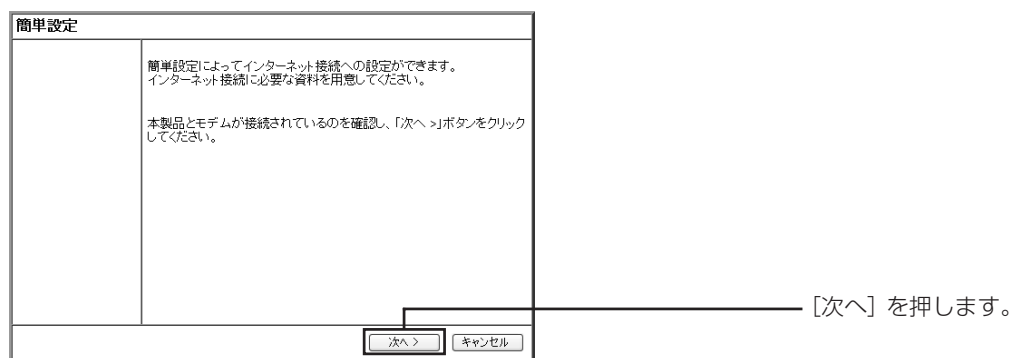
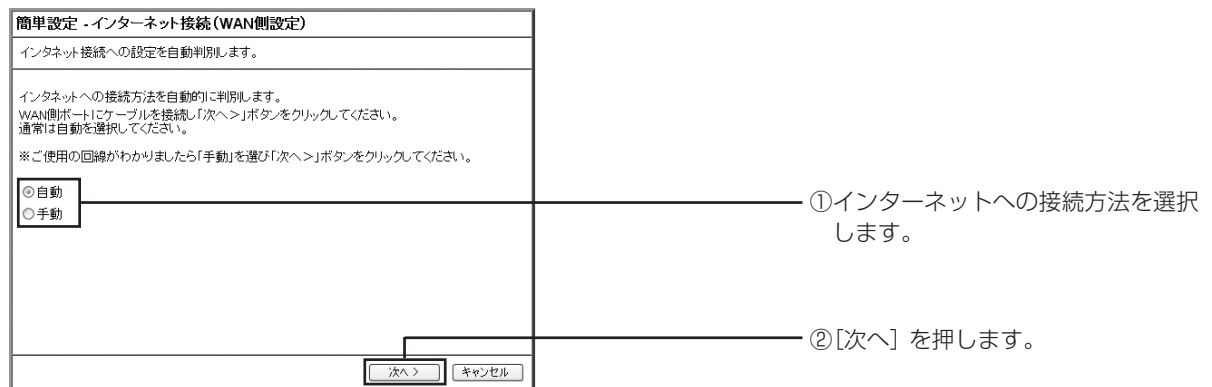
2　Web ブラウザのアドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

ルータ機能が「無効」に設定されている場合は、変更したIP アドレスを入力します。

3　ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、ユーザ名の欄に「root」と入力し、パスワードは空欄のままで［ログイン］を押します。

- **工場出荷時の状態では、ユーザ名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。**
- **ユーザ名、パスワードは変更できます。詳しくは「本商品のログイン名（ユーザ名）、パスワードを変更したいときは」（P.14）をご覧ください。**

4　設定ユーティリティが起動します。

5　設定ユーティリティの左側にある［簡単設定］を選択します。

6　「簡単設定」画面が表示されたら、［次へ］を押します。

7　「簡単設定・インターネット接続（WAN側設定）」が表示されたら、インターネットへの接続方法を選択し（通常は「自動」を選択します）［次へ］を押します。

〈「自動」を選択した場合〉

「自動」を選択した場合は、WAN 側設定を自動で判別します。結果が表示されたら［次へ］を押してください。

〈「手動」を選択した場合〉

「手動」を選択した場合は、インターネットへの接続タイプを選択し、［次へ］を押して該当する手順にしたがって設定を行ってください。

・IP 自動取得（DHCP）－ Yahoo! BB、CATV など

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）からIPアドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP 機能を利用して、IP アドレスが自動的に割り当てられます。

・IP 固定設定－固定 IP サービスなど

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）から固定IPアドレスを取得している場合に選択します。

・PPPoE（FLET'S シリーズ）－フレッツ・ADSL、B フレッツなど

PPPoE と呼ばれる接続手順を使ってインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダよりユーザ名とパスワードが割り当てられます。本商品ではプロバイダの情報を設定ユーティリティに登録すると、「フレッツ接続ツール」などを使用せずに自動的にインターネットに接続できます。

8　接続タイプに応じて各項目の設定をします。次の接続方法ごとの説明をご覧いただき、設定を行い、P.37 の手順 9 へお進みください。

〈「IP 自動取得（DHCP）」の場合〉

「IP 自動取得（DHCP）」を選択した場合は、「簡単設定」で設定する項目はありません。P.38の手順9に進んでください。

〈「IP 固定設定」の設定項目〉

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

項目名	入力例	説明
① WAN 側 IP アドレス	12.34.56.78	プロバイダから指定されたIP アドレスを入力します。
②サブネットマスク	255.255.255.0	プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	12.34.56.1	プロバイダから指定されたゲートウェイのIPアドレスを入力します。
④ DNS サーバ 1	12.34.56.98	ローカルにDNSサーバを設置する場合、またはプロバイダからDNSサーバのIPアドレスを提供されている場合に入力します。

設定が終わったら［次へ］を押します。

〈「PPPoE（FLET'S シリーズ）」の場合〉

この画面は、下の表の入力例を使用した場合の例です。実際にはご使用の環境に合った値を設定してください。

① 接続ユーザ名、接続パスワードを入力し、［次へ］を押します。

項目名	入力例	説明
①接続ユーザ名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定された接続ユーザ名を入力します（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）。
②接続パスワード	Password02	プロバイダより指定された接続パスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。 ※入力可能な文字は、半角の英数字、記号で 25 文字までです。 ※「 ” 」および「 ” 」以降に入力した文字は保存されません。
③パスワードの確認	Password02	②で入力したパスワードを確認のためにもう一度入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。

② フレッツ・スクウェアをご利用になる場合はご利用地域（「東日本」もしくは「西日本」）を、利用しない場合は「利用しない」を選択して［次へ］を押します。

9 次の画面が表示されたら、［保存］を押します。

10 しばらくするとテスト結果が表示されるので、確認してください。パソコン、モデムと本商品の設定、接続に問題がなければ、テスト結果の欄に「OK」と表示されます。

上の画面のように表示されなかった場合は、前ページの手順9に戻り、再度テストを行ってください。それでも正常に終了しなかった場合は、「テストに失敗したときは」（次ページ）をご覧ください。

11 接続が確認できましたら、「詳しい説明書を入手する」をクリックしてダウンロードすることをおすすめします。最後に［終了］を押してWeb ブラウザを終了します。

- **その他の設定項目については、「PART2 設定画面を見てみよう」（P.41）をご覧ください。本商品のより高度な使用方法については、「PART1 こんなときにはこの設定」（P.5）をご覧ください。**
- **PPPoE セッションを同時に2つ使用する（マルチPPPoE）場合には、「マルチPPPoE で2つの接続先を使い分けるには」（P.9）をご覧ください。**

■テストに失敗したときは

テスト終了後、テスト結果が次のように表示されたときは、メッセージの内容を確認して、再度ウィザードをやり直してください。

上の画面が表示された場合、次のような原因が考えられます。

・ユーザ名かパスワードの入力を間違えている
プロバイダからの契約書類などを確認して、正しく入力してください。

・モデムと回線が正しく接続されていない
モデムとスプリッタ、スプリッタとモジュラコンセントなどが正しく接続されているか、確認してください。

●インターネットに接続してみよう

パソコンと本商品の設定が完了したら、インターネットに接続できるか確認します。

1　本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer などの Web ブラウザを起動します。

2　Webブラウザのアドレス入力欄に当社のホームページアドレス「http://corega.jp/」を入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ホームページが表示されます。

ご契約のプロバイダによっては、設定後、インターネットに接続できるようになるまでに、時間がかかる場合があります。詳しくは、ご契約のプロバイダにお問い合せください。

もし、インターネットに接続できなかった場合は、付属の冊子「Q&A」をご覧ください。

●他のパソコンを接続するときは

本商品に接続したいパソコンが他にもある場合は、「『かんたんスタート』CD-ROMを使わないでネットワーク設定するには」（P.21）、「Web ブラウザの設定をしよう」（P.31）、「パソコンと本商品を接続しよう」（P.32）をご覧いただき、同じ手順でパソコンの設定を行い、本商品のLAN側ポートとパソコンをLANケーブルで接続してください。

無線での接続方法は、付属の「らくらく導入ガイド」をご覧ください。

PART
2
設定ユーティリティを見てみよう

本商品を使っていて「高度な機能を使いこなしたい」、「設定ユーティリティの詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

設定画面の全体構成について

設定画面の各機能

- このPARTでの説明は、例を使用して説明しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。
- 各設定画面にある［HELP］を押すと、説明が表示されます。
- 各設定画面の例は、PPPoE接続の画面です。IP自動取得接続やIP固定接続では、画面が例と違う場合があります。
- 設定変更を行った際は、各画面下にある［設定］または［更新］をクリックして、設定内容を保存してください。

●CG-WLBARGS（トップページ）

設定ユーティリティ起動時の画面です。ユーティリティの全体図を表示している（画面左側）他、インターネットに接続後は［ユーザ登録］、［取扱説明書］、［Q and A］を利用することができます（画面右側）。

●モード

ここでは、「ルータ機能」または「無線アクセスポイント機能」のモード切り替えの設定をします。

項目名	内容
①ルータ機能	本商品をルータとして使うときは「有効」に設定します。 ※工場出荷時は「有効」に設定されています。
②無線アクセス ポイント機能	本商品を無線アクセスポイントとして使うときは「無線アクセス有効」に設定します。 ※工場出荷時は「有効」に設定されています。

●簡単設定

簡単なインターネット接続の設定を行います。設定の詳細については、「本商品の設定をしよう」(P.34)をご覧ください。

●WAN側設定(インターネット)

WAN側のPPPoE、IP自動取得(DHCP)/IP固定の設定を行います。設定変更をしたい項目をクリックしてください。

フレッツ・ADSL、Bフレッツなど	PPPoE(P.44)
Yahoo! BB、CATVなど	IP自動取得(DHCP)/IP固定(P.48)

本商品はWAN側の通信方式を選択できます(通常は変更する必要はありません)。変更する際には、次の画面と表をご覧いただき、お使いの環境に合わせて設定してください。

項目名	内容
①リンク速度	本商品とWAN側に接続する機器間のリンク速度を選択できます。
② MDI切替	本商品のWANポートのMDI/MDI-Xを切り替えることができます。

■ PPPoE…フレッツ・ADSL、B フレッツなど

PPPoE アカウント（インターネットに接続する際に必要な ID）の設定をします。

項目名	内容
① Account-1 ～ 5	アカウントの名称を表示します。
②セッション -1/-2 設定	WAN 側の PPPoE の設定を行います。
③接続先設定 （セッション２のみ有効）	接続アカウントを使用する条件を設定します（P.47）。

・セッション -1/-2 設定

PPPoEを使用するときに設定します。設定前にプロバイダより指定された「ユーザ名」（接続ユーザ名）、「パスワード」（接続パスワード）などをご確認ください。

〈セッション -1〉

項目名	内容
①セッション選択	左ページの画面を表示させるときは「セッション 1」を選択します。
②接続	クリックすると、リンクが接続されます。
③切断	クリックすると、リンクが切断されます。
④アカウント選択	・5つのアカウントを登録できます（「セッション 1」で使用したアカウントは「セッション 2」では使用できません）。 ・アカウントを選択して、⑥～⑮までの設定を変更し、選択しているアカウントに保存できます。またアカウント名の右側にある［アカウント名変更］をクリックすると名称を変更できます。
⑤ MAC アドレス	本商品の WAN 側（インターネット側）MAC アドレスを表示します。
⑥接続ユーザー ID	プロバイダ（ISP）より指定されたアカウントのユーザ名を入力します。
⑦接続パスワード	プロバイダより指定されたアカウントのパスワードを入力します。
⑧接続パスワードの確認	確認のため、再度⑦で入力したパスワードを入力します。
⑨接続方法	■常時接続 常にインターネットへ接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ■トリガ接続 インターネットへの接続が発生したときに、自動的に PPPoE 接続を行います。 ■手動接続 手動で接続しない限りインターネット接続を行いません。
⑩無通信時間監視	プロバイダのアクセスポイントへの接続後、通信を行わなくなってから自動切断までの時間（分）を入力します（トリガ接続、手動接続のときのみ）。
⑪ MTU 値	右側の「自動調整」にチェックを入れると、MTU 値が自動的に調整されます。「自動調整」のチェックを外すと、576 バイトから 1492 バイトの範囲で設定できます。
⑫ PPPoE サービス・タイプ	使用する PPPoE のサービスタイプを選択してください。 ■ PPPoE（セッション 2 設定可） 通常のマルチ PPPoE 接続で通信します。 ■ Unnumbered IP（セッション 2 使用不可） 複数のグローバルIP※1を使用するサービスを利用する際に使用します。 ・ルータ IP とサブネットマスクは、本商品の IP アドレスとして同じアドレスが WAN 側／ LAN 側に設定されます。 ・グローバル IP を LAN 側（パソコン側）で使用するときは、LAN 側（パソコン側）でグローバル IP を固定で設定してください。 ■ Unnumbered IP+Private IP（セッション 2 使用不可） 複数のグローバル IP とプライベート IP※2 を同時に使用することができます。 ・Unnumbered IP設定に対してルータIPを設定することで本商品のグローバル IP を使って IP マスカレード※3 機能を使用することができます。 ・グローバル IP を LAN 側（パソコン側）で使用する場合は、LAN 側（パソコン側）でグローバル IP を固定で設定してください。

※ 1：グローバルIP
インターネットで使用されるIPアドレスのことです。グローバルIPアドレスとも呼びます。
※ 2：プライベートIP
イントラネットやLAN組織内で自由に発行できるIPアドレスのことです。プライベートIPアドレスとも呼びます。
※ 3：IPマスカレード
グローバルIPを企業等で1つ持ち、複数のパソコンで共有する機能です。企業内で持つプライベートIPとグローバルIPを相互に変換することで実現できます。

項目名	内容
⑬ルータ IP	プロバイダから割り当てられたIPアドレスを入力してください（⑫でUnnumbered IPまたはUnnumbered IP+Private IPを選択したときのみ）。
⑭サブネットマスク	プロバイダから割り当てられたサブネットマスクを入力してください（⑫で Unnumbered IP または Unnumbered IP+Private IP を選択したときのみ）。
⑮ DNS サーバ	プロバイダから指定された DNS サーバの IP アドレスを入力します。 ■自動設定 DNS サーバの IP アドレスが自動割り当ての場合に選択します。 ※サーバの値は自動的に設定されます。 ■マニュアル設定 プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指定されている場合に選択し、IP アドレスを入力します。
⑯［設定］	設定変更をした際、保存するときにクリックします。
⑰［取消］	設定変更を取消したいとき、［設定］をクリックする前に限り、現在の設定変更する前の状態までキャンセルすることができます。
⑱［戻る］	「PPPoE」画面に戻ります。

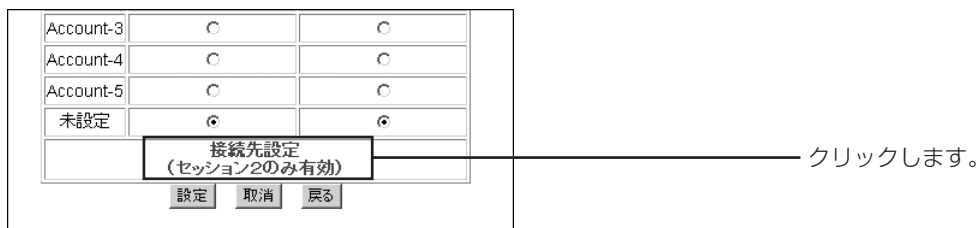
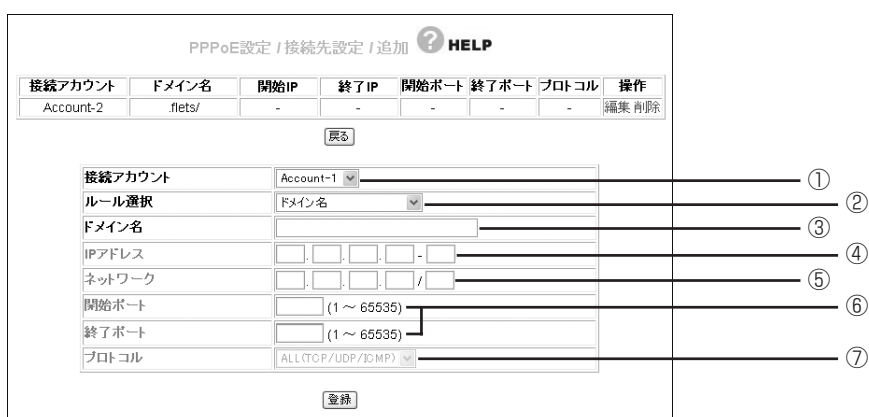
〈セッション -2〉

項目名	内容
①セッション選択	上の画面を表示させるときは「セッション 2」を選択します。

※その他の項目はセッション1と同じ設定内容です。

・接続先設定

PPPoE設定画面で登録した「セッション2」経由で接続するネットワークの設定を行います（例：Bフレッツ等）。

1　「接続先設定（セッション2のみ有効）」をクリックします。

2　次の画面が表示されるので、各項目を設定してください。

項目名	内容
①接続アカウント	接続するアカウントを選択します。
②ルール選択	接続先に使用するルールを選択します。
③ドメイン名※	接続先のドメイン名を入力します。 例：www.corega.co.jp →「corega」 www.flets →「.flets/」
④ IP アドレス※	接続先の IP アドレスを入力します。 例：http://192.168.10.1 →「192.168.10.1-0」 ftp://192.168.10.1と192.168.10.2→「192.168.10.1-2」
⑤ネットワーク※	接続先のネットワークアドレスを入力します。 例：http://172.16.XX.XX →「172.16.0.0/16」 ftp://192.168.10.XX →「192.168.10.0/24」
⑥開始／終了ポート※	接続先の開始および終了ポート番号を入力します。 例：http://www.corega.co.jp →「80-80」 ftp://corega.co.jp →「20-21」
⑦プロトコル※	使用するプロトコルを選択します。

※「ルール選択」で選択した項目によっては入力できないことがあります。

■ IP 自動取得（DHCP）／IP 固定…Yahoo! BB、CATV など

IP アドレスの自動割り当て、または固定 IP を割り当てているプロバイダのみでご使用になれます。

項目名	内容
① MAC アドレス	本商品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。
②タイプ／ IP 自動取得（DHCP）	特に IP アドレス等を指定されていないときは、自動取得にします。プロバイダ（ISP）から自動的に IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSアドレス等、インターネットに必要な情報を取得します。
③タイプ／ IP 固定	インターネット接続に必要な情報を指定されたとき、手動で設定します（次の項目は、「IP 固定」を選択した場合のみ表示されます）。 ・WAN 側 IP アドレス プロバイダ（ISP）から割り当てられたIPアドレスを入力します。 ・サブネットマスク プロバイダから割り当てられたサブネットマスクを入力します。 ・デフォルト・ゲートウェイ プロバイダから割り当てられたゲートウェイアドレスを入力します。
④ドメイン名	プロバイダから指定された場合、ドメイン名を入力します（②を選択した場合のみ表示されます）。
⑤コンピュータ名	プロバイダから指定された場合、コンピュータ名を入力します（②を選択した場合のみ表示されます）。
⑥ MTU 値※1	576 から 1500 までの範囲で割り当てることができます。能力の高い接続環境であるほど高い数値を入れると速い速度で送信できます。接続環境に合わせて変更してください。
⑦ DNS サーバ※2	・自動設定 DNS サーバの IP アドレスを知らされていないときや自動割り当ての場合に選択します。 ・マニュアル設定 プロバイダより DNS サーバの IP アドレスが指定されている場合に選択し、IP アドレスを「DNS サーバ 1」「DNS サーバ 2」に入力します。

※ 1：MTU値
1回の転送で送信できる最大値のことです。接続環境によって適正値があり、どの環境でも「数値大＝速い」ということではありません。Ethernetは1500、電話回線（ダイヤルアップ回線）は576が適正と言われています。

※ 2：DNSサーバ
インターネット上のパソコンの名前であるドメイン名を、住所にあたるIPアドレス（4つの数字の列）に変換するコンピュータのことです。

■ダイナミックDNS（DDNS）

インターネット側からIPアドレスではなくURL（ドメインネーム）を使用してLAN内のバーチャルサーバなどに接続できます。本機能を使用することによって、ダイナミックIPアドレスのような、IPアドレスが固定されないサービスに対応します。

・ダイナミックDNSの設定

1 DDNSサービスに登録手続きをします。登録は「corede.net」(無料サービス。一部サービスは有料)、「DynDNS.org」（無料サービス)、「IvyNetwork」（有料サービス)、「@Net DDNS」（有料サービス／「@NetHome」会員のみ）の４つから選択できます。登録手続きをすると、後からユーザ登録確認メールが送信されてきます。

「@Net DDNS」（有料サービス／「@NetHome」会員のみ）をご利用いただく場合は、加入者サポートページより、家庭内ネットワーク内のダイナミックDNS（ホームモニタリング）からお申し込みください。

2 登録した際に受け取った情報をもとに、ログイン名、ログインパスワード、ドメイン名を入力して保存します。

3 本商品の再起動をします。再起動の方法は「本商品を再起動するには」（P.19）をご覧ください。

4 本商品はその時点で使用しているIPアドレスを、設定したDDNSサービスに自動的に記録します。設定したダイナミックDNSを使用して、バーチャルサーバなどへの接続が可能になります。

・PPPoEモードの選択時の設定項目

PPPoEモードを選択しているときは、アカウントごとに設定できる項目があります。

項目名	内容
①ダイナミックDNS	ご利用になるDNSサービスを選択します。
②ログイン名	DNSサービスに登録したログイン名を入力します。
③ログインパスワード	DNSサービスに登録したパスワードを入力します。
④ドメイン名	DNSサービスに登録したドメイン名を入力します。必ず取得したドメイン名を使用してください。
⑤IPチェック時間	取得したドメイン名とIPアドレスの整合性を指定時間で確認します。

■パススルー
各パケットをルーティングせずに透過する場合に設定します。

項目名	内容
①ダイレクト PPPoE	PPPoE パススルーの有効／無効を選択します。
② VPN パススルー	VPN パススルーの有効／無効を選択します。
③ IPv6 ブリッジ	IPv6 ブリッジの有効／無効を選択します。

●LAN側設定

LAN 側の詳細な設定を行います。

■ルータ IP
LAN 側の IP アドレス、サブネットマスク、URL ホームを設定します。LAN 側の IP アドレスを変更したい場合に設定してください。

項目名	内容
① MAC アドレス	本商品の LAN 側の MAC アドレスが表示されます。
② LAN 側 IP アドレス※1	本商品の LAN 側の IP アドレスを入力します。IP アドレスの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」（ドット）で入力します。 ※工場出荷時は「192.168.1.1」に設定されています。
③サブネットマスク※2	本商品のLANインタフェース※3のサブネットマスクを入力します。サブネットマスクの値は「0 ～ 255」までの数字と「.」（ドット）で入力します。 ※工場出荷時は「255.255.255.0」に設定されています。
④ URL ホーム	設定した URL を Web ブラウザのアドレス欄に入力すると、本商品の設定ユーティリティのトップページを表示させることができます。 ・アドレスには「.」（ドット）を組み込んで 3 ～ 24 文字以内で設定します。 ・「.」（ドット）はアドレスの先頭、末尾には使用しないでください。 ※工場出荷時は「corega.home」に設定されています。

※ 1：IPアドレス
TCP/IPプロトコルを使ったネットワークで、コンピュータを識別するためのアドレスのことです。
※ 2：サブネットマスク
IPアドレスの先頭部分となり、IPアドレスのネットワーク·アドレス部を増やす方法です。
※ 3：インタフェース
2つのものの間で情報のやりとりを仲介するものです。

■ DHCP サーバ／PC データベース

・DHCP サーバ

DHCP サーバの設定を変更したいときに各項目の設定を行います。

項目名	内容
① DHCP サーバ	DHCP機能の有効／無効を選択します。有効にすると自動的にパソコンに IP アドレスを割り振ります。
②リース期限継続方法	DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限継続方法を選択します。期限指定／無期限の指定ができます。
③リース期限	DHCPサーバでリースされるIPアドレスのリース期限を指定します。※②を期限指定に指定している場合に設定できます。
④ DHCP 開始アドレス	DHCP サーバでリース開始の IP アドレスを入力します。※工場出荷時は「192.168.1.21」で設定されています。
⑤ DHCP 終了アドレス	DHCP サーバでリース終了の IP アドレスを入力します。※工場出荷時は「192.168.1.50」で設定されています。

・PC データベース

本商品に接続するクライアントパソコンの IP アドレスを登録することができます。

項目名	内容
①パソコン名	クライアントパソコンの「ホスト名」を入力します。
② IP アドレス	IP アドレスの取得方法を選択してください。 ■自動取得（DHCP クライアント） パソコンがDHCPクライアント（Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」）に設定している場合、本商品はこのパソコンに IP アドレスを提供します。IPアドレスは通常変わることはありませんが、リース期間に達した場合やネットワークから長時間パソコンから取り外された状態で再接続した際に変わることがあります。 ■固定取得（DHCP クライアント） パソコンがDHCPクライアント（Windowsでは「IPアドレスを自動的に取得」）に設定している場合、毎回決まった IP アドレスを取得したいときに選択します。最後の空欄に 1 ～ 254 までの任意の数字を入力してください。 ■固定設定（DHCP 範囲以外） パソコンが固定IPアドレスを使用している場合は、これを選択してください。 ※「接続タイプ」は、有線接続しているパソコンは「LAN」を、無線接続しているパソコンは「WLAN」を選択してください。
③ MAC アドレス	適切なオプションを選択してください。 ■自動検索（パソコンが接続されている状態） 本商品がパソコンと通信し、そのパソコンの MAC アドレスを自動取得するようにします。パソコンがLANに接続されている状態でお使いください。 ■ MAC アドレスは 直接パソコンのMACアドレスを入力してください。MACアドレスは「ハードウェアアドレス」「物理アドレス」または「ネットワークアダプタアドレス」と呼ばれることがあります。本商品は各パソコンを個別に認識するためにこれを使用しますので、MACアドレスは空白にしたままでの使用はできません。
④［PC データ追加］	パソコンデータを使用して本商品のリストに新しいパソコンを加えることができます。MACアドレスで「自動検索」が選択されている場合、パソコンにコマンドを送りMACアドレスを取得し、そのMACアドレスを登録します。
⑤［データの削除］	画面上で入力した値をクリアすることができます。
⑥［戻る］	標準「PC データベース」（上の画面）に戻るときにクリックします。

■無線アクセスポイント設定
無線 LAN のチャンネルや、セキュリティなどの詳細な設定を行います。

・802.11g/b 設定
IEEE802.11g/b 通信の設定を行います。

「802.11g/b セキュリティ設定」（P.53）の「JUMPSTART」が「有効」の場合、「ESSID」「モード」「チャンネル」は固定になります。

項目名	内容
① ESSID	無線LANに接続する機器を識別する名前です。接続する全てのパソコン（無線 LAN アダプタ）に同じ名前を設定してください。 ※工場出荷時は「Jumpstart-P1-xxxxxx」に設定されています（xxxxxx の部分は製品ごとに異なります）。
②モード	「802.11g/b」に設定すると802.11b、802.11gの両方を使用することができます。
③チャンネル	使用する電波の周波数（無線チャンネル）を選択できます。周辺の電波と混信するような場合に変更してみてください。
④ Super モード	「有効」に設定すると「Super A/G」および「Super G」モードを搭載した無線機器と通信したとき、バースト転送およびデータ圧縮を行い、通信速度を向上させます。
⑤ eXtended Range	「有効」に設定すると、「eXtended Range」に対応した無線機器と通信したとき、通信距離を伸ばす（最大で 2 倍）ことができます。
⑥転送レート	無線の転送速度を設定します。
⑦ IPv6 マルチキャスト通信	IPv6 を使用したブロードバンド映像サービスなどを利用する場合に「有効」に設定します。 ※工場出荷時には「無効」に設定されています。
⑧ステルス AP	「有効」に設定すると無線LANアダプタを持つパソコンから本商品のESSIDを検索されないようにできます。またESSIDを「ANY」や空白にしているパソコン（無線LANアダプタ）からのアクセスを拒否することができます。
⑨電波強度	本商品の電波出力の強度を設定します。
⑩ビーコン間隔	アクセスポイントが常に発生している、アクセスポイントの情報の入ったショートパケット（ビーコン）の送信間隔を設定します。 ※工場出荷時は「100」に設定されています。通常は変更する必要はありません。

項目名	内容
⑪ RTS しきい値	有線 LAN から受信したパケットを無線 LAN 側に転送する際に RTS（送信要求）パケットが送信されるしきい値を設定します。ここで設定した値を超えるパケットを送信する場合にRTS（送信要求）パケットが送られます。 ※工場出荷時は「2346」に設定されています。通常は変更する必要はありません。
⑫パケット分割のしきい値	有線LANから受信したパケットを無線LAN側に転送する際に分割するときのしきい値を設定します。ここで設定した値を超えるパケットが分割されます。 ※パケット長は、偶数で指定してください。 ※工場出荷時は「2346」に設定されています。通常は変更する必要はありません。

・802.11g/b セキュリティ設定

IEEE802.11g/b のセキュリティの設定を行います。

項目名	内容
① JUMPSTART	本商品の JUMPSTART の有効／無効を設定します。 ※工場出荷時は「有効」に設定されています。
②認証方式	WEPを使用する場合は「Open System」または「Shared Key」を、WPAを使用する場合は「WPA/WPA2-PSK」または「WPA/WPA2-EAP」を、WPA2だけで使用する場合は「WPA2-PSK」または「WPA2-EAP」を選択します。 WPA/WPA2は個人で使用する場合には「PSK」を、企業などで使用する場合には「EAP」を選択するのが一般的です。 ※工場出荷時は「Open System」に設定されています。
③暗号方式	本商品の暗号方式を設定します。②で選択した認証方式によって、選択できる暗号方式も変わります。 WEP： 通信内容を暗号化することにより、通信の解読を防ぎます。 AES： 米国商務省が暗号化標準技術として承認した暗号規格。TKIP より強固な暗号化を施すことが可能です。 TKIP： 一定時間ごとに暗号キーを変更する暗号化プロトコルです。

項目名	内容
④暗号化	WEPの暗号強度を次のいずれかに選択できます。 ・「64Bit-16進数（0～9／a～f）10桁」 ・「128Bit-16進数（0～9／a～f）26桁」 ・「152Bit-16進数（0～9／a～f）32桁」 ・「64Bit-ASCII（半角英数記号）5文字」 ・「128Bit-ASCII（半角英数記号）13文字」 ・「152Bit-ASCII（半角英数記号）16文字」
⑤WEPキー	WEPキー（暗号キー）を入力し、デフォルトキー（1～4）を選択します。キー1～キー4のそれぞれに、設定する暗号キーを④で選択した暗号強度に従って直接入力してください。
⑥WPA共有キー	WPA2-PSKまたはWPA/WPA2-PSKを選択した場合に「ASCII文字(8～63文字)」を選択し、初回アクセス時に使用する8～63文字(半角英数)の任意の暗号キーを入力します。「16進数(64文字)」は「JUMPSTART」で使用しますので、通常はこちらを選択する必要はありません。
⑦DTIM	DTIM（配信トラフィック・インディケータ・メッセージ）の通信間隔の値を設定します。 ※工場出荷時は「1」に設定されています（通常は変更する必要はありません）。
⑧プリアンブル・モード	通信時のプリアンブル・モードを設定します。
⑨更新間隔	暗号キーを更新する間隔を秒単位で指定します。
⑩セキュリティ サーバ	WPA2-EAPまたはWPA/WPA2-EAPを選択した場合にRADIUSサーバの設定を行います(設定内容に関してはネットワーク管理者などにご確認ください)。

・アクセス制限

アクセス制限を使用する場合の接続を許可する無線クライアントの設定などを行います。

項目名	内容
①無線端末間通信	無線端末（PCなどのクライアント）同士の通信を制限します。 有効：無線端末間の通信を有効にします。 無効：無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。
②無線－有線間端末通信	有線端末と無線端末同士の通信を制限します。 有効：有線無線端末と無線端末間の通信を有効にします。 無線：有線無線端末と無線端末間の通信を無効にします。不特定多数の端末がアクセスするような環境でプライバシーを守ることができます。
③MACアドレス フィルタリング	選択したクライアント（MACアドレス）のみ接続を許可します。 有効：選択したクライアント（MACアドレス）の接続を許可します。 無効：すべてのクライアントが接続可能です。

●セキュリティ設定

項目名	内容
①ステルスモード	「無効」を選択すると、インターネット側（WAN 側）から PING リクエスト（通信確認リクエスト）があった際に応答します。「有効」を選択すると PING に応答しなくなります。 ※ PING に応答することによって、インターネット側から本商品の存在を確認できます。相手によってはお互いの存在を確認しながらインターネット接続をはじめるものもありますので、その際には「無効」を選択してください。
②ファイアウォール	SPI により、ファイアウォールを通過するパケットのデータを読み取り、内容を判断して自動的にポートを開放・閉鎖します。セキュリティが高いほど安全ですが、通信速度に影響がでる場合があります。

■アクセス制限

アクセス制限を使用することにより、LAN 側（クライアント）からの WAN 側（インターネット）へのアクセスの許可または禁止の設定をすることができます。

項目名	内容
①制限する IP アドレス	アクセスを制限したいパソコンのIPアドレスを含んだ、IPアドレスの範囲を登録します。
②制限するサービス	アクセス制限をするサービスを、登録されているサービス一覧の中から指定して制限をかけることができます。
③プロトコル	制限するサービスが、登録されているサービス一覧にない場合は②で「ユーザ定義」を選択し、プロトコルを選択します。
④制限するポート範囲	制限するサービスが、登録されているサービス一覧にない場合は②で「ユーザ定義」を選択すると、任意のポートを指定してアクセス制限をすることができます。
⑤スケジューリング	「スケジュール」で指定した時間にアクセス制限をかけることができます。詳細は「スケジュール」（P.58）をご覧ください。

■コンテンツフィルタ
ネットスター株式会社の「悪質サイトブロックサービス for BB ルータ」を使用して、好ましくないサイトへの接続を自動的にブロックすることができます。
本機能の紹介および設定方法は付属の冊子「コンテンツフィルタリングで安心インターネット」をご覧ください。

・URL 直接入力によるアクセス制限機能
接続制限をしたいURL を入力し、[登録] をクリックすると、フィルタリストにURL が追加されます。文字列を入力すると、その文字列を含む URL がブロックされます。

項目名	内容
①説明	アクセス制限の説明をつけることができます。
②制限する IP アドレス	アクセスを制限したいパソコンのIPアドレスを含んだ、IPアドレスの範囲を登録します。
③ URL または キーワード	アクセスを制限したい URL やキーワードを登録します。 例：violence

■スケジュール
ここで設定した時間帯にアクセス制限を行うことができます。登録した設定は「コンテンツフィルタ」（P.57）または「アクセス制限」（P.56）で使用してください。

項目名	内容
①名前	スケジュールに任意の名前を付けることができます。
②コメント	任意の説明文を付けることができます。
③スケジュール	ここで時間帯を設定します。時間は24時間表記で入力してください。 ■曜日 制限したい曜日の「開始時間」と「終了時間」に数値を入力してください。 ■開始時間 制限を開始する時間を入力してください。 ■終了時間 制限を開始する時間を入力してください。

●詳細設定

■バーチャルサーバ
インターネット（WAN側）から本商品のパソコン（LAN側）上にアクセスできるようにして、外部にサーバを公開することができます。設定するときは、次の表示された画面で設定を行ってください。

- ・パソコン上でサーバソフトを実行している必要があります。
- ・ダイナミック DNS（DDNS）機能を使用することで、より簡単にインターネット上から LAN 上のサーバに接続することができます。
- ・インターネット上のホストが行う本商品のWAN側IPアドレスとポート番号を指定したアクセスは、バーチャルサーバ機能によって指定された接続先（パソコン）にアクセスします。同じ LAN 内で同種類のサーバを立ち上げたいときは、ポート番号が重複しないようにしてください。

項目名	内容
①接続先	サーバとなるパソコンを選択します。
②サービス	設定するサービスを選択します。
③ポート範囲	設定したいポートの範囲を入力します。「詳細設定」にチェックを入れると、WAN 側と LAN 側のポート範囲が入力できます。
④プロトコル	バーチャルサーバで使用するプロトコルを設定します。
⑤備考	バーチャルサーバの説明を入力します。 ※入力しなくても設定はできます。

①の接続先で、サーバとなるパソコンが表示されない場合、PCデータベースでサーバとなるパソコンを登録する必要があります。登録方法は「DHCP サーバ／PC データベース」（P.51）をご覧ください。

■ DMZ

LAN上のコンピュータ（DMZホスト）に全ての入出力アクセスを可能とします。スペシャルアプリケーション機能を使用できなかったときなどに設定します。

項目名	内容
① DMZ ホスト	インターネットに対してすべてのIPサービスを有効とする場合に設定します。DMZ 機能を使用したいパソコンを選択してください。 例：外部にサーバを公開したり、ネット・ゲームなどを使用する場合

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

■ UPnP

UPnP 機能を使用するときに、この項目の設定を行います。

※PPPoE接続の場合の画面例です。

項目名	内容
① UPnP 使用ポート	クリックすると UPnP で使用しているポートを確認できます。
② UPnP を使用する	UPnP の有効／無効を選択します。 ※ UPnP 機能は Windows XP でご使用になれます。
③アプリケーションで WAN IP を選択する	UPnP対応アプリケーションでWAN IPを選択する場合に使用します。
④WAN 側 IP のセッションを選択する	手動で UPnP を使用する WAN IP（セッション）を選択する場合に使用します。
⑤WAN の切断機能を有効にする	WAN の切断機能の有効／無効を選択します。有効にすると UPnP 機能を使用して WAN（インターネット側）を切断することができます。

・UPnP 使用ポート

UPnP で使用しているポートを確認できます。

●管理

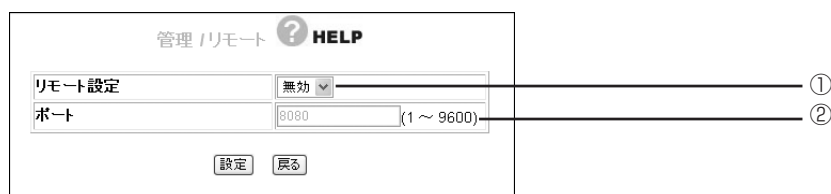
本商品のログイン名やパスワードなどのシステムを変更するときに設定します。

項目名	内容
①管理者ログイン名	本商品の管理者用のログイン名を変更します。設定以降はこのログイン名でユーティリティ設定を行います。 ※工場出荷時は「root」に設定されています。
②管理者ログイン・パスワード	本商品の管理者用のパスワードを設定します。空欄にした場合、設定変更するときにパスワードは入力不要です。 ※工場出荷時は設定されていません。
③パスワードの確認	確認のため、再度②で入力したパスワードを入力します。
④ IP マスカレード・テーブル保持時間	IP マスカレード・テーブルの保持時間を設定します。設定時間を長くすることで、FTP サーバなどへの長時間の接続に対応します。通常のインターネット接続などでは設定する必要はありません。
⑤時間設定	自動設定にすると、NTP サーバを検出して自動で時刻を設定します。 手動設定にすると、「年／月／日」、「時：分：秒」の順に設定できます。
⑥工場出荷時の状態へ戻す	本商品に設定されている内容をすべて工場出荷時の値に戻します。 ※実行する前に必要な値はメモしておくことをおすすめします。
⑦再起動	本商品の設定を変更した後で［実行］をクリックして再起動します。
⑧設定保存	設定変更をした際、保存するときに［保存］をクリックします。
⑨設定読込	⑧で保存した設定内容を読込みます。

■ファームウェア更新
弊社のホームページからダウンロードした最新のファームウェアをパソコン内に保存することができます。保存したファームウェアの更新方法については、「最新のファームウェアを入手してアップデートしたいときは」（P.14）をご覧ください。

項目名	内容
①［最新ファームウェアの確認］	クリックすると、今お使いのファームウェアが最新のものかどうかを表示します。最新でない場合は、［ファームウェアダウンロードページへ］をクリックすると、最新のファームウェアに更新できるダウンロードページに自動的に接続されます。
②［参照］	ダウンロードなどで入手したファームウェアの保存先を選択するときにクリックします。
③［ファームウェア更新］	本体のファームウェアの更新を開始します。
④［取消］	本体のファームウェアの更新を中断します。

・更新中は絶対に本商品の電源を切らないでください。
・更新中にブラウザの操作をすると、ファームウェアの更新は中断されます。

■リモート
インターネット（WAN 側）から本商品の設定をしたいときに、この項目の設定を行います。

項目名	内容
①リモート設定	リモート設定を有効／無効に設定します。有効にするとインターネット側（WAN 側）から本商品の設定を可能にします。
②ポート	1 ～ 9600 の範囲でポート番号を入力してください。 ※工場出荷時は 8080 です。 インターネット側からの接続の際、下記のようにIPアドレスの後ろに「:ポート番号」を指定してください。 例：http://WAN 側 IP アドレス:ポート番号

リモート機能で設定したポート番号は、バーチャルサーバなどでは使用できません。

■ PINGテスト

任意のコンピュータにPING※を使ってテストができます。

項目名	内容
①宛先アドレス	テストしたい相手のコンピュータのIPアドレスを入力します。
②[実行]	①で相手のアドレスを入力後、[実行]をクリックするとPINGテストを開始します。テスト結果は下の欄に表示されます。

※PING
　コンピュータが通信可能な状態かどうか確かめるためのプログラムです。

■ Cable Test

使用しているポートのリンク速度を表示します。

項目名	内容
①詳細情報	Cable Testの詳しい内容が表示されます。

●ステータス

本商品のファームウェア・バージョンや接続状態などを表示します。[更新] をクリックすることで最新の情報に書き換えられます。

■ログ表示

本体のログ情報を表示します。[更新] をクリックすることで最新の情報に書き換えられます。

・アタック ログ

DoS アタック※が発生した際に、そのログを保存します。

※DoSアタック
インターネットにつながっているパソコンやルータなどに大量の不正なデータを送り、使用不能にさせる不正アクセスの1つです。

・DHCP ログ

本商品の DHCP サーバ機能の稼動状況を表示します。

・システムログ

本商品へのアクセス履歴などを表示します。

MACアドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなどに直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダに事前申請してください。
本商品の MAC アドレスは本体底面に記載されております。
LAN 側の MAC アドレスについては、設定ユーティリティの「ステータス」（P.64）で確認できます。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

2005 年 11 月　初版
2006 年 5 月　第三版